



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



静岡新聞

リュウゼツラン



5月から突然茎が伸びて花を咲かせたリュウゼツランを見上げる戸田正吾さん＝6日午後5時半ごろ、島田市横井

「アオノリュウゼツラン」が植えられた家を戸田さんが購入したのは約24年前。なぜ植えられていたか特に

島田戸田家とともに24年

つた二人の息子がちょうど就職の内定を決めたころだった。中心から太さ10センチの茎がぐんぐん伸び始め

島田市横井の小学校教諭戸田正吾さん(54)宅で、最期の時を迎えたリュウゼツランがかれんな花を咲かせた。リュウゼツランは30〜50年の寿命を迎えた時、最後の力を振り絞って一度だけ花を咲かせ、枯死に至ると言われる。戸田さんは「我が家の歩みを見守り続けてくれた植物」と感慨深げに貴重な最期を見届けている。

最期の開花

気にすることなく、妻敏子さんと当時生まれたばかりの長男と新生活を始めた。2年後に次男にも恵まれた。15年前に家を新築した際、リュウゼツランが工事の支障になったが、戸田さんは「これは家を守ってくれている植物だ」と抜かず、少し横に丁寧に植え替えた。長年代わり映えのなかったリュウゼツランに突然変化が見られたのは今年5月。大学院生と大学生に育

子どもの自立見届け

た。わずか3カ月で7〜8センチに立ち上がり、先端に淡黄色の花を咲かせた。30〜50年にただ一度だけ見られる開花は、同時にリュウゼツランの最期を意味していた。戸田さんは「30〜50年という寿命は知っていたので、そろそろかなと覚悟はしていた。二人の息子の自立を見届けてくれたんでしよう」と目を細めた。妻の敏子さんは「さみしいけれど、新芽や種子に新しい生命を宿しているのを見て、私もこれから新しいことに挑戦してみようと勇気をもらえた」と話し、常に家族とともにあったリュウゼツランに感謝の思いを込めた。

2013年8月2日夕刊 中部版

- ① リュウゼツランは寿命を迎えた時、どうなりますか。
- ② 今年の5月、リュウゼツランはどう変化しましたか。
- ③ 戸田さんのリュウゼツランに対する思いを記事から読み取り、感想を書きましょう。

年 組 名前

(小学校高学年、中学生 総合)